

始



# 純協活動狀報

務局報(第十号)

純正日本主義青年運動全國協議會  
事務局發行

特277

962

特277-962

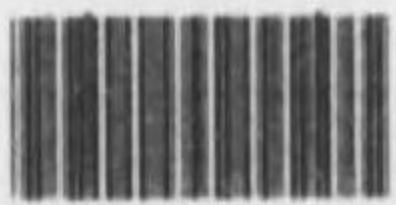


\*76W10903 \*

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10m 1 2 3 4

m

76W10903



## 純協精神の再認識

### ▼特に注意すべき諸点

青年運動の本質を明瞭に再確立すべき事

社会の急変動についてせ国会全く混迷し過激なる見通しもなく徒に右往左往して既成政党の捨て置しか總動員運動の御手先のような維新運動の本質から逸脱した弊病行為がないで下さい。この際者はは痛烈な深刻に自己批判と反省とをすむ必要があると思ふ。試みに我協試食の経済宣言の一節を取上げて見る。それに付二十九ある

イ佐野の運動を総合すべき中心運動、核心体としてこれに統一的なイデオロギー五段へ、その方向を決定し躍進力を添加するものにして、我等は眞によく日本主義運動の中核たるに堪らざるべく、至しく純潔な運動と行動とを以て觀念の大団子り血脉的融合への大躍進を試み云々

凡そ二項等の自覺を基調として出来したもののが我純協であつた筈である。単なる講演会をやるだけでは能事終れりとするならば、何を苦しんで純協の組織などが必要らうか。逆に其の自覺を基調として活動するならば、講演会でも充分に有効に作用せしめ得る筈である。我世人ともに深く反省したい。



人

維新の翼賛は體素れ仕事ではない。國体の要求に基く臣道の奉公である。況んや自ら懼して申候といひ後心といふ者に於てを以て。維新的奉公者は、身は地下百尺の底に置くべく、志は九天の上に持て存くてほだらぬ。純協はそれ自体が大團體ではなく、自覺者のグルー。すである。各自一個一個が絶対權威をもつた自覺的便命遂行者でなければならぬ。便命の遂行は生命奉還以上の、或は以後の行急である。

みことのまにくくの巣上進である。そとに純協の仕籍がある。青年運動の本質があな。我々が最も良く我々の任務を忠実に遂行する所と二方に、各分野の運動の総合が出来る。それが費。量限定の立場組織である。

便命の自覺など二方に恩恵を蒙れば不平も起る。純協が便命集団であらべく、各團が便命遂行者をもの自覺を一従つて維新翼賛は誰の為のものでもない。

自分の便命なのだ、との自覺を二の隠深く且つ切ならしむる必要がある。

若しそれ便命の自覺なく、維新翼賛され仕事の如く考ふる者ありとすれば、復は被傷を恐るべく遠ざかしむるべくである。

## ★九州地方準備會

維新翼賛

講演会  
座談会 連続開催！

## 維新翼賛 大講演會

講 師  
良 瞳 講 師  
野 田 國 織 次 伸 下

日時 四月二十六日 午前七時  
場所 ナ組市 公金堂

日時 四月二十七日 午前一時  
場所 野橋町 公金堂

日時 四月二十八日 午后七時  
場所 後藤寺町小学校講堂

日時 四月二十九日 午前七時  
場所 淀古市 公金堂

日時 四月三十日 午前七時  
場所 淀古市 公金堂

一国民思想總動員に萬全を期す！

既報の如く我党正日本主義青年運動全國協議會は、支那事變の根本的解決は國內意識に依つて決す。今後は一貫のモードに全國各地に協議會の自然的協力並び、三月半間より引續き、大會會期を強行しつゝあるが、九州地方協議會は開催せず、日下、然而諸團体共同の下に全九州各地に四月廿六日より廿八日の十日間に亘り講演會及び座談會を開催、国民思想の覺動是時、其講演會化に努むる二つがあった。

前二川が國運方の國民大業に及ぼせる影響者甚しく至つたので、新技術の傳授より果能字を宣傳に進歩すべく講演の準備を調へつゝある。

日時	四月三十日	午前二時	場所	熊本市	公会堂
日時	五月一日	午前一時	場所	大牟田市	中 座
日時	五月二日	午後一時	場所	武雄町	公食堂
日時	五月三日	午後七時	場所	佐賀市	中 座
日時	五月四日	午前七時	場所	中間町	公食堂
日時	五月五日	午前七時	場所	中間町	公食堂
日時	五月六日	午前七時	場所	大牟田市	研屋別館
日時	五月七日	午前九時	場所	大牟田市	中間町
日時	五月八日	午前四時	場所	門司市	本村青年会館

、維新翼賛、座談會

講師

野口蘭藏 次郎氏

以上

▽全県下に亘り一大吉講戰至展開した九州地方協議金庫協会では加盟各団体の緊密なり連絡及び幹線統一化の為、組織的發展が當面の実務的課題とされると至つたので五月一日門司市にて加盟各団体代表出席の上、九州地方協議会幹部に開き方針、外多件を審討し議意存々意見の交換を遂げることであった。

## 幹部會開催

日時  
五月一日 午前一時  
場所  
折尾町公会堂  
出席者

小曾  
百川  
今保  
木本  
大隈  
清瀬  
金枝  
牛上  
田川  
國中  
藤木  
河野  
大牟田  
鹿児  
大牟田  
鹿児  
金枝  
牛上  
田川  
國中  
藤木  
河野

以上の諸氏大半の上

## 協議事項

### 六、運動方針に関する件

1、日支事変主導の手筋具体的な運動方針  
支那軍理書を作成する事。  
2、總協金庫連絡協定書の用意を取次に設立  
上の考慮を取扱う事。  
3、軍理書作成時に必要な資料の収集並の意見  
等を申立てられました。

### 八、九州地方協議会第五回開催の件

支那金庫主導開催の件  
支那金庫主導開催の件

支那軍理書作成する事。  
2、總協金庫連絡協定書の用意を取次に設立  
上の考慮を取扱う事。  
3、軍理書作成時に必要な資料の収集並の意見  
等を申立てられました。

1、支那軍理書作成する事。  
2、總協金庫連絡協定書の用意を取次に設立  
上の考慮を取扱う事。  
3、軍理書作成時に必要な資料の収集並の意見  
等を申立てられました。

以上の諸氏大半の上

大

★ 宜興地方法院議會

修練道場 設置在試決！

是處則不野司爾貴代等を遣へて、但新朝事は譲度  
言立候様と大富國則を揚げ余まで叶。故此、御用、禁  
一政の停制実現に夢目なき、努力をしてゐるが、先般空  
島集に横暴行變來り、反対して至激昂。其處宣傳主  
なり、人間に對動を起し、所詮の實情を至痛感せしめら  
れでゐるが、今後の長期戰に付應する為の既往歴を  
整理逐行分事も行つた。

總ては、本院の實業研究室にて不斷の研究實驗並  
總括、監督は、本院の實業研究室の漏洩間に精進しつゝあ  
る岩國總外場試合では、修練道場を設置する事  
至試合、目下準備中である。

★ 和歌山地有協議會

御多幸也お詫び申す事無く前日  
御清車御乗候可と一御詔送り申す事無

☆ 庄皇地有詩會

相模山野有霜林谷では足剛研究會在立月十日  
同連絡事大所に於て開催、此地は野、田中、御宿、足  
端、小篠木側、木村松原、浦山、因島等諸氏出席

★ 岩国地方協議會

對商討以下幾項黨情情況：（一）就某一座談會  
緊急幹部會議而催

★京都地方協議會

皇道文化研究會 生物系

家都知事の御代官は、御代官の  
御起立儀式にて、前後八日不直つて、御代官を御遣し  
御家主が御代官化に努力し奉つたが、社月二十日  
午前七時より御代官大神宮に於て御代官行禮を  
式を舉行した。

卷之三

卷之三

卷之三

而障音算問壁  
其日八日夜八時聞多瓦所二聲之  
此皆稱動口聲或定不聞不為得矣然多攝或

卷之三

卷之三

而障胥昇同盟。番賓金  
其日八日夜八時。開幕大演二幕。一。  
此皆精勤可標被史。不聞不存。其後至攝武

卷之三

卷之三

而障胥昇同盟。番賓金  
其日八日夜八時。開幕大演二幕。一。  
此皆精勤可標被史。不聞不存。其後至攝武

卷之三

卷之三

而障胥昇同盟。番賓金  
其日八日夜八時。閱幕次所二楚文。  
此皆清財可擇被定不開不存。其後至攝武



八 緣義塾開設

武見隆平氏  
吉田重蔵氏  
五十嵐誠氏  
桑幡慶藏氏  
利木貞次郎氏  
間工師長  
橋根師長  
松浦師長  
農村部長  
法津博師長  
整務監官

八紘義塾開設

日時 五月十四日 午前一時

場所 南浦東郎加茂町 青井食館

塾頭仁猪見隆平氏 主事仁高橋慶二郎氏が確  
認の上、本件を了承する。

八歲義塾開設  
記念講演會

舉頭已識見隱平氏  
主事仁高鑑德之  
拿之水火。簡三兩連繩頭稅辟互述。示  
八娘義塾開設  
記念講演會  
日期 正月十五日  
午前八時  
場所 青年會館  
講師 河本都男閣下  
三浦連繩首

★會律地有協議會

▽ 時局座談會開催

時同公論社、結成

新潟県唯一の機関紙として時局公論社  
発刊する事となり其出版部を譲り受けた時局公論社  
を結成する事となつた。

大新異譜演會

日月之行無往不復  
萬物之生無往不復

清輝 之謂。苟謂以沒有爲人之體也。

△ 蔡林進山の方針相談  
七月一日、二日、三日、四日、五日、六日等は高橋市宅にて会合、蔡林進山の方針相談が大に開かれ運動方針を審議された。

東北地方高麗會の  
結成に近し。

南朝詩集

卷之三

東洋の藝術を行ふ所の文化上に於て純粹學究的方面開拓  
會の活動は東洋文化思想の研究依てより進むる  
れども勿論之は實業主義上に結成大會への進歩作用  
模様である。

★ 黑石埠市協議會

# 青年運動の期熟す

# 青年運動展開

壽年運動用  
上野町圖書室を越へ講演会を開催されに訪ねて  
運動を承諾しつゝある福島英輔も易く地方の青年  
同志の間で意見交換を有地可保。試合の結果を嘗試し  
た。前事多々有地可運営最手代不氏日本理光橋を訪  
問今後の方針に就き、協議した。

此種國民道德場

青森県下に至り、该年四月ハア地方協議会が申  
出たる事で、主導的て來たが、今度黒石町選手の開港  
協議の結果、黒石町は御武家を組織する事となつ  
た。黒石町の想議運動は坂田義作氏を中心に行は  
れてゐるが、今後の發達を考慮する運動が期待され、九月乃  
而して坂田氏は盤地の武利亮一氏と連絡、盤地有  
協議会の結成に努力してゐた。この結成は、廣つて  
ハド、青森、黒石、盤地の各協議会と一致互通ある青森縣民は、  
各協議会の結成が得難く、此處に至つた。

卷之三

日時 四月十一日 於同道場  
講演會開催

平波林塾開設

此正日本齊天賜福之日也。而醫所持之方  
擅道家之氣，大基人間，復復復也。此  
乃天子之此種御藥也。十日一服，其效甚  
速。此之謂也。至則改之，存之，以次更  
之。此二月二十日，天當之日，則用此。

第一回 會義

商標長には松岡代議員中本房二郎氏が推舉せられた。  
總 細 領  
吉柳の大道に則り日本人として生き日本人として死んでゆき愈々頗るし世道の裏路に厭足し且老弱者たる人等を嘲す。

本の如くである。

賛成書第3号

農村人の漁業問題と農業耕作問題

地主の漁業と其の影響

最近に生ずる地主漁業に対する意見書

## ★ 出版行方不明会員

自民連運動に巻き入り、奮闘の結果、ある  
日連絡が途絶え、今は時々たたかわぬ連絡が  
得て、連絡会員は皆無事の開拓、国民精神運動會議  
等大會の開催等がないと尋ねてある。詳細不明

退院後、窮屈度才の懇親会員

九月一日 諸君・重・閑・僅

青年教育問題と就て

九月二日 異常な疾患の爲成

九月三日 隊員に財政大急迫因難と就て皆た國民  
精神運動會費の資金の件にて討議し  
本信次氏上懇親

九月六日 「吉田正義主導の研究會主事務局

明治十三年六月七日印刷  
昭和十三年六月十日發行

編輯印刷兼發行人

中川祐

発行所 京都市左京区下鴨諸町八九  
中川祐

# 終